

九大第2外科 白日高歩
国立九州がんセンター

太田満夫

対象は、昭和49年9月までに九大胸研および九州がんセンターにて経験された肺癌例のうち、喫煙歴・職業歴などが明らかな289例である。

成績：1)男女比は3.8:1で、これについて他の国の成績と比較し考察を加えた。2)喫煙と組織型との関連をみると、喫煙者における肺癌発生の期待値およびRiskは、類表皮癌、小細胞未分化癌で、非喫煙者のそれより4~7倍高かった。3)腺癌例のなかで、Solid type(大細胞未分化癌像)の像がより多いものには、喫煙や他の大気汚染の影響が考えられ、glandular typeのものや肺胞細胞癌には、1のような影響が少ないと考えられた。

5. 当科における若年者肺癌の検討

長崎大学第二内科

雨森博政, 植田保子, 冬野誠三
中塚重和, 籠手田恒敏

森 信興, 奥野一裕, 原 耕平

昭和40年より現在までに当科に入院した40才未満の所謂若年者肺癌13例について検討を行った。13例の内訳は男性9例, 女性4例で年齢は全例30才代で30才代前半が8例, 後半が5例であった。組織型別では扁平上皮癌4例, 腺癌7例, 未分化癌2例と腺癌に多い傾向がみられた。発見動機では集検例5例, 有症状例8例であり, 臨床病期は集検例1例がII期で, 他は全例III, IV期であった。X線分類では肺野腫瘍型5例, 肺門腫瘍型3例, 肺門浸潤型1例, 胸膜炎型3例, 無所見例1例であった。治療は手術2例, 放射線療法, 化学療法11例であった。これら症例の

予後はいずれも悲観的であった。若年者肺癌はその生物学的特性のためか予後が悪く今後, 集検等による早期対策の必要性を痛感させられた。

6. 肺癌患者における喀痰中の一般的菌叢について

熊本大学 第一内科

徳永勝正, 浜田和裕, 六反田学

坂本文比古, 桶口定信

福田安嗣, 志摩 清

徳臣晴比呂

昭和47~49年の入院肺癌患者の喀痰中一般細菌叢について検討した。症例数107例, 原発性肺癌33例, 細菌検索は107例中42例, 89検体について行った。菌の出現率はG(+)菌ではγ-streptiが多く, G(-)菌では, Kleb. 33.7%, 緑膿菌23.6%, Cloaca 15.7%, 肺感染を併発した29例の推定起炎菌51検体では, G(-)菌80.4%で, Kleb. 33.3%, 緑膿菌23.5%, 肺感染有り群では, Kleb., 緑膿菌, 大膿菌は明らかに出現率の増加があった。癌治療前では, G(+)菌の出現率は減少し, G(-)菌では, Kleb.大腸菌の増加があった。特に, Kleb.緑膿菌の検出率が高い事は, 癌患者が高令者に多く, 慢性呼吸器疾患を有している可能性が高く, 基礎疾患としての肺癌の存在等が基因しているものと考えられる。

7. 小細胞型未分化肺癌の超微形態的検討

九大第2外科

白日高歩, 吉田猛朗, 牛島幸雄
九大胸部疾患研究施設

重松信昭, 宮崎信義
門司鉄道病院 松葉健一

我々は最近経験した2, 3の症例に光顕的, 電顕的検討を加えてこの点につき検討した。〈結論〉: 1)小細胞性未分化癌の一

部には末梢発生のものが認められ, 末梢領域にも発生母組織の存在が考えられる。2)光顕的には燕麦型のものも含めて2種以上の細胞群で構成されている事が多い。3)光顕的に定型的な燕麦型と判断されないものでも, 電顕的に検討すると, 紡錘状及びリンパ球様のもものでは, 特に前者に多く, セロトニン様顆粒を認める事ができ, Kultschitzky cellとの比較検討が必要である。また気管支基底細胞との形態的類似はpoly gononalな細胞に比して乏しいと思われた。

8. 肺癌の免疫療法

国立九州がんセンター

大田満夫, 安元公正, 真鍋英夫
飯田 彰, 植田英彦

我々は, 肺の扁平上皮癌由来の培養細胞株(QG56)を標的細胞にして, 患者リンパ球の細胞障害性を測ると, 臨床病期とよく比例することが判った。

肺癌65例に, BCG-CWS(山村, 東)による免疫療法を行った。その結果CWSによる免疫療法は, QG56に対する患者リンパ球のCytotoxicityを上昇させる傾向を示し, 4ヵ月以上免疫療法を行った患者ではCytotoxicity 50%以上が37.5%に, 40%以上は62.5%となった。又このCytotoxicityの強さは, 臨床的な改善, 増悪とよく相関した。PHA反応では, 高いものは臨床的にも良好であるが, 低値は必ずしも悪い経過を示唆しなかった。PPDによる皮内反応は陽性化する傾向があるが, E. EAC rosette forming cellの比率及び免疫globulinの値には一定の傾向はなかった。BCG-CWSによる肺癌の免疫療法は有効と思われた。

9. くり返し起った肺炎により